

# 60歳以上最多509人

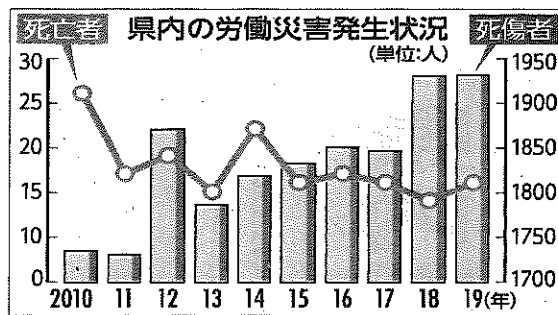
## 目立つ女性の転倒事故

### 県内労災死傷者1931人 19年

県内で2019年に発生した労働災害の死傷者(休業4日以上)は前年比1人増の1931人になり、過去10年で最多を2年連続で更新したことが1日までに、栃木労働局のまとめで分かった。働く高齢者の増加に比例して高齢者の事故が増えており、年齢別では60歳以上が最多の509人で、全体の26%を占めた。1〜7日は全国安全週間。同局は「高齢者が安心安全に働ける環境づくりへ重点的に取り組むたい」としている。(佐野恵)

同局によると、年齢別は50代の450人が2番目に多く、50歳以上が全体の半数を占めた。19年の60歳以上の事故を男女別や事故形態別で分析したところ、女性の「転倒」が117人になり、最も多いことが分かった。

同局は「高齢になるほど運動機能が低下し、視力の悪化なども伴って転倒リスク」



死者数は16人に上り、前の「墜落・転落」が276

人と続いた。「転倒」のうち、ぬれた床での「滑り」、階段による「つまずき」、階段の「踏み外し」が相次いだ。

業種別はサービス業などの「第3次産業」が前年比9人増の870人と全体の45%を占め、小売業や社会福祉施設などが目立った。製造業は548人、建設業は209人だった。

同局は「高齢者は貴重な労働力」と強調。安全週間期間中は労働災害の防止に努めるよう、事業所や関係団体へ積極的に呼び掛ける。

一方、今年の死傷者数は、5月末で前年同期比3人減の608人。新型コロナウイルスの影響で営業を自粛した飲食店などの接客娯楽業が減少しているものの、需要が増した運送業などで増加傾向にあるという。